

# ちょっと待って！その服洗える？ 洗濯表示タグを確認しよう！



## 必ず確認していただきたいこと

### 【ファーの確認】

冬物衣類の首回りや袖口等に部分使いされている毛皮を「ファー」と呼びます。  
ファーには、リアルファー（毛皮）とエコファー（模造毛皮）があります。  
品質表示タグ、洗濯表示タグにリアルファーなのかフェイクファーなのか書いてありますので、出す前に必ず確認をお願いいたします。



取り外し可能なリアルファーは、必ず取り外した状態でお出しください。

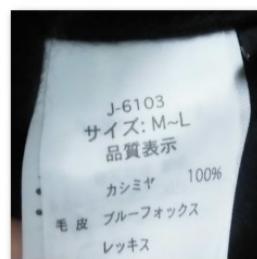
取り外した付属品は、お客様ご自身でご自宅で保管ください。

### リアルファー

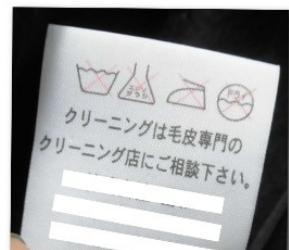
当サービスでは洗えません

◎ 毛皮（リアルファー）とは文字通り「毛」と「皮」からできています。  
動物の毛皮を素材としている天然素材であり、ミンクやきつね（フォックス）などが使われた高価なコートやショールを思い浮かべますが、タヌキ（チャイニーズラクーン）、アライグマ（ラクーン）、うさぎ（ラビット、レッキス）などもあります。  
現在は洋服の一部として、コートの衿や裾、フードに使われているケースが多くあります。  
(コートだけではなく、セーターの一部や、手袋の一部などに使われていることもあります)

### <襟に取り外せないファーがついているコート>



「毛皮 ブルーフォックス・レッキス」と書いてあります。



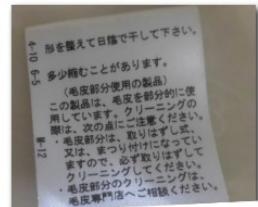
洗濯表示はすべて×

この場合、取り外すことのできないリアルファーがついており、洗濯表示が全て×のため当サービスではクリーニングすることが出来ません。

### <裾部分にファーがついているコート>



「ファー チャイニーズラビット」と書いてあります。



毛皮部分は「必ず取りはずしてクリーニング」と書いてあります。

この場合、「毛皮部分は、必ず取りはずしてクリーニング」と書いてありますが、実際にはコート本体にリアルファーがまつり付け(縫い付け)られていて取り外すことはできないため、当サービスではコート本体もクリーニング出来ません。

## 【本革・合成皮革の確認】

動物の革を使った本革に対し、革の風合いに似せて作られた人工製品を合成皮革（合皮）といいます。  
品質表示タグ、洗濯表示タグに合成皮革なのか書いてありますので、  
出す前に必ず確認をお願いいたします。  
**本革は通常のクリーニングができません。**

### 合成皮革（合皮）

合成皮革はクリーニングできますが、水洗いしか出来ないもの、ドライクリーニングしか出来ないもの等、クリーニング方法は様々です。

しかし、見た目では判断が難しく、表示を参考にするしかありません。

全体が合成皮革で出来たジャケット等、わかりやすいものだけではなく、衣類の装飾品の一部に合成皮革が使われているなど、気づきにくい箇所にも使用されています。

浮きやひび割れを起こしていると、一回のクリーニングで合成皮革が剥がれてしまう恐れがあります。

#### 部分的合皮（例）



ベルト部分が合皮



ポンディング加工とは接着加工のことです。



ポケット一部が合皮



ベルトのバックル部分が合皮



劣化により、  
ひび割れを起こしている



見た目は大丈夫でも、裏地と表地を接着している樹脂などが剥がれて、表面がボロボロになる恐れがあります。

「合成皮革」となっており、  
「素材の特性上、時間の経過と共に  
に劣化が生じます」と表記されています。

**耐用年数が短く、新品のまま収納していても2~3年で  
空気中の水分で劣化し、ひび割れ・べたつきを起こします。**

**★ ポリウレタン素材衣料も同じ理由で注意が必要です。**

ポリウレタンという素材は、時間とともに劣化の進む素材です。  
ポリウレタン樹脂の劣化により接着部分が剥がれたり、  
樹脂がにじみ出したりする場合があります。

人気のある、縫い目のないシームレスダウンなどのシームレス製品も  
圧着接着テープが経年劣化により剥がれることもあります。

状態によってはクリーニングできない場合がございます。

その場合は、クリーニングせず保管後返却等となりますので、あらかじめご了承ください。